報　告

METEC '79 見学記

柴田正宣*

1. はじめに

METEC '79 は冶金技術および設備に関する国際見本市で，1979 年6月 16 日より 22 日まで，西ドイツ，デュッセルドルフ市で開催された．西ドイツには大きな見本市会場が4ケ所あり，デュッセルドルフ市のもその一つで年に約 20 回も各種見本市を開催している．

今回開催された METEC はこの種のものとしては最初で，国際会議も同時に開催された．METEC '79 に参加した感想を以下に述べてみたい．

2. デュッセルドルフ市の見本市

もともとドイツの見本市は物々交換の市場が拡大したもので，産業振興の一翼を荷つており，各市がこれを援助している．見本市自体も具体的な商品を展示し参加者も自分が購入するつもりで選択する，というものが多い．デュッセルドルフ市見本市開催会社は通称を NOWEA といい，デュッセルドルフ市 (75%)，デュッセルドルフ市が州都となつているノルドラインヴェストファーレン州 (20%) により所有されている会社で，取締役3名，従業員約 400 名の小さな会社である．各国に代表部を持ち，日本では在日ドイツ商工会議所に代表部がある．デュッセルドルフ市自体もこの見本市を重要なものと考えており，スポーツ・娯楽の週刊案内パンフレットにMETECのシンボルマークをとり入れたり，デュッセルドルフ空港と見本市会場の間にバスを走らせたり，バス路線を見本市会場まで延長したり（見本市開催中)，電車を走らせたり（常設）している．市街の各所にも見本市のポスターが掲示されていた．

3. 見本市会場

見本市会場はデュッセルドルフ市の北側でライン河東岸にある．現在の会場は 1971 年に建設されたものでまだ新しい．会場は本部 (NOWEA の事務所)，会議場，13の展示会場（総面積 131 500 m²) および連絡通路から成り，連絡通路および会場内無料バスにより移動できるようになつている．本部にはサービスセンターが付設され，案内所（見本市総合案内，ルフトハンザ出張所，鉄道，レンタカー案内)，酒・食料品店から2つの銀行出張所まで揃つていた．展示会場にはレストランやカフェテリアが付設されている場合も多く，アイスクリームや新聞雑誌の立売りも見うけられた．会議場は会議室が 16 室あり，ロビーがそのまま夜のレセプションの会場ともなるゆつたりとした作り方であつた．但し，国際見本市会場の名にふさわしくなく，会場内に掲示されている文字はほとんどがドイツ語のみであり，外国人には不親切と感じた．

4. METEC '79—国際見本市—

METEC の開催はプロジェクトチーム方式をとり，会長は Mr. Weiss（クルップ会長）があたり，NOWEA が事務局となり実行にあたつた．METEC '79 としては，7～10 号館が展示会場として用意された．

冶金技術 (Hüttentechnik) というタイトルで想像できるように，主体は鉄鋼関係で，展示会場は鉄鋼会社のデモンストレーションの場のような感じであつた．特に地元のドイツではティッセン，クルップ，マンネスマン各グループが広いスペースを確保して展示していた．日本からも鉄鋼大手5社および製鉄設備メーカー5社の出展があつた．アメリカは今回の METEC '79 には関心を示していないのか，US スティールのエンジニアリング会社がドイツの関連会社を通じて出展していたのが目についた程度である．その他に，出版社や学会 (VDEh) も出展していた．

出展の方法としては実際の機械の展示，カタログ，ビデオ，スライド，模型等による展示等が考えられるが，METEC では当然のごとく実際の機械の展示は少なく，梱包用機械が大きく展示されていたのが目につく程度であつた．連鋳用モールドの一部を展示できる程度の大きさにしたものも見られた．模型としては，製鉄所全体のものや，ミルライン等各種が展示されていた．又，出展の方法としては単に商品展示だけでなく，アルコールも含み展示場の一角で飲物のサービスをしている会社もいくらかみられた．

こうなると，見本市というのは単なる宣伝だけではなく，具体的に商談までもつてゆく場である，と考えていることがわかる．

この他に出展社はセミナーを開催することができる．

* 日本鋼管(株)（旧日本鉄鋼協会技術部部員）

出展した商品の宣伝が目的であることは無論であるが，参加者と十分な検討ができることがメリットとなつている．このセミナーのプログラムを別に作つたり，予稿集を情報として流すなど，NOWEA もサービスに気を配つていた．

METEC '79 の出展は 21 ヶ国より 328 社が行い，56 ヶ国より 27 000 名の参加者をみて国際見本市の名にふさわしいものとなつた．NOWEA はMETEC '79 を一応の成功とみており，次回を 4 年後に開催する予定としている．

5. METEC '79—国際会議—

国際会議は 6 月 18 日より 20 日午前までの 2 日半にわたつて開催された．NOWEA 自体は会議内容に詳しくないため，VDEh（ドイツ鉄鋼協会）等が内容決定，準備を行た．日本鉄鋼協会も会議に協力し，3 名の講演者を派遣するとともに，田畑専務理事が座長を勤めた．講演は合計 57 件の多きを数えたが，原料処理から表面処理まで，更に非鉄金属も加えて内容が多岐にわたり焦点が何となく定まらなくなつたような印象を受けた．参加者は 32 ヶ国より 1 200 名となり NOWEA の予想より多かつた様子である．講演はドイツ語が多く，いずれの場合も英，独，仏 3 ヶ国語が同時通訳により聞くことができるようになつていた．が，あまりうまい通訳ではなかつたようである．

スライドは図面のトレースから製作まで NOWEA が担当し，全体が揃つていた．このようなところにも NOWEA は相当の金をかけていた．講演者が用意する通常の方法と比較するとゆとりを感じさせられる．

工場見学も行われたが．これは会議に付属しており，会議に出ないと工場見学にも参加できないようなシステムになつていた．人数を絞るという点ではひとつの方法である．なお，当然のことであるが，すべての催しは有料である．

6. その他の催し

（1） GIFA '79

METEC '79 の一週間前，鋳物を扱う国際見本市 GIFA '79 が開催された．初回の METEC と異なり既に 5 回目で，会場も 1～4 号館，11～13 号館の多くを使用していた．参加者は 54 500 名と混雑していた．展示は METEC '79 とは違つた雰囲気で，実機が多く，自動化した鋳物工場を再現したようなおおがかりのものもあつた．日本からも 2 ヶ所に展示が行われていた．

（2） **therm process** '79

GIFA '79 と METEC '79 の期間中，平行して 5，6 号館で開催された．熱処理炉および熱処理技術に関するもので，実炉の展示も多かつた．

（3） 鉄の 150 年

METEC の会場である 10 号館の中央部分を利用して製鉄の 150 年の歴史をパネル，実物，写真等により紹介していた．古い鍛造機や初期のマンネスマン穿孔機，トーマス転炉等が展示されていた．初回の METEC らしい企画であつた．

（4） 美術品展示会

therm process と同じく 6 月 9 日から 22 日にわたつて美術品展示会が開催され鋳造工場の絵，鋳型，鋳造で作つた美術品が展示されていた．この展示会のためかデュッセルドルフ市内の美術商に GIFA のポスターが掲げてあつた．なお，展示品はよく見ると値段がついているので，販売するものと思われる．

7. お わ り に

今回筆者は NOWEA より招待を受けデュッセルドルフ市で開催された METEC '79 を見学する機会を得た．日本で見本市という場合は，何となく商品を展示するお祭り的なものを想像しがちであるが，ドイツの場合は，見本市で具体的な商談にまでもつてゆく場である，との感想を持つて帰国したしだいである．